

2023 年度（令和 5 年度）幼稚園評価自己評価表

最終更新日	2024 年（令和 6 年）3 月 26 日
-------	------------------------

園番 27	福山市立 緑丘 幼稚園
-------	-------------

1 幼稚園教育目標

心豊かにともに伸びる“たくましい子ども”の育成

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

①一人一人が自信をもって自己表現ができる子を育てる幼稚園 ②直接体験を大切にしたい感動ある保育実践ができる幼稚園 ③保護者や地域の人々との繋がりを大切にする幼稚園

3 目指す幼児像

①やさしい子（友達の気持ちを受け止められる子） ②考える子（自分の思いを伝え、友達と一緒に考えられる子） ③粘り強い子（自己肯定感をもち、目標をもって取り組める子）
--

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

本園は、市中心部から離れた東部に位置している。商業施設や住宅が増え、人口の流入が激しい地域である。本年度より 3 年保育がスタートし、保護者・地域の期待は高く、校区外からの入園園児も多い。しかし、年々働く保護者が増加し、園児数は激減する一方である。近年コロナ禍の中で社会状況が一変し、子ども同士、保護者同士のつながりがますます希薄になっている。また、子どもの遊びや文化も大きく変容し、ゲーム・動画等 ICT 機器を使って夢中になって遊んでいる子が増加し、選択肢の幅が大きくなるため、共通の話題が持てなくなりつつある。

保護者の価値観も多様化し、子どもの成長を「うちの子はこういう子だから」と決めつけた見方をしたり、子どもに気を遣いながら接し、悩んだりする等子育てにしんどさを抱え、支援が必要な保護者がいる一方で、周りの人とあまり交わろうとせず、自分流の子育てをする保護者も増えている。

子ども達は、療育に並行通園する等 支援を要する園児が多い。思い思いに好きな遊びを見つけて楽しんでいるが、人と関わる経験やいろいろな経験不足から、自己コントロールできない子、逆に不安感が強く、始めからチャレンジしない子や自分の思いや困り感を出ることが苦手な子も多い。

このような実態から、一人一人が安心して園生活を楽しみ、集団の一員として自信をもって行動し、友達と力を合わせることの大切さや楽しさ、達成感や満足感を感じ取ることができるよう、人との関わりや自然とのふれあいなどリアルで豊かな感動体験活動を通して、教育目標に迫っていききたい。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
一人一人が自己表現し、自信をもって活動する幼児 ～ やりたい気持ちを引き出すための援助と環境を通して～	昨年度コロナ禍の中で十分なふれあいができなかったが、互いに学び合う援助や環境を工夫することで、子ども達は自己表現し、意欲的に活動する姿が見られるようになってきた。しかし、やりたいことは言うが、「だから～してほしい」と伝えたり、遊びの継続・発展させたりすることには課題が残った。 本年度 3 年保育がスタートした。3 歳～5 歳の子ども達の一人一人の発達段階や育ちの違いは大きく、個人差が大きい。しかし、同年齢や異年齢との触れ合い・交流を通して、互い学び合い、育ち合い「～がやってみたい」「～ができるようになりたい」と意欲を高めたり大きい組への憧れを抱いたりする場や機会は多い。本年度も、子どもの姿から思いをしっかりと読み取り、やりたい気持ちを引き出すために、一人一人に応じた評価をするとともに、集団として互いに学び合い、成長を促すような援助や環境構成を大切にする。受容され、適切な評価を受けた子どもは、自己肯定感を高め、積極的に自己表現し自信をつけると考え、設定した。

※【評価】 Aー達成した Bーほぼ達成した Cーじゅうぶん達成していない Dー達成していない

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価	評価結果
					○=反省や課題 ◎=改善のための方策
生きる力の育成	安心して自分の思いを表現できる力をつける	身近な人に自分から関わろうとしている	・保育者は子どもの思いを受け止め、共感したり友達に声をかけたりする。	B	○子どもの思いを受け止められるように努めながら、子ども同士をつないだ。その結果、どの子も人への関心が広がり、友達を誘って遊んだり、一緒に遊ぶことを楽しんだりし、人との関わりを楽しむようになった。
			・「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」が言えた時は褒める	B	○「おはよう」の挨拶は、繰り返し挨拶を交わす心地よさを伝え続けることで、今は自分から挨拶をする子どもが増えてきた。また、保育者が一人一人の良さを認める声かけをすることで、周りの子ども友達の良さを意識するようになった。 ○友達が大好きな子どもが増えてき、挨拶や会話のやり取りを楽しむ子が増えてきた。 ◎相手の気持ちを考えずに自分本位、自分優位な発言からトラブルになることもあるので、体験を通して様々な気持ちに触れ、気持ちに気づき感じられるようにしていく。
	身の周りの環境に自分から進んで関わる力をつける	学びが次の遊びの学びへとつながるよう、実態に応じてマネジメントする	・振り返りの場を大切に、子どもの声に耳を傾け、困ったことややりたいこと等思いを読み取る	B	○子どもの声をしっかり聞くことで、自分から言いたい気持ちが強くなり、友達の遊びにも興味を持つきっかけの場となった。 ○子ども発信の活動を取り入れたり、環境を工夫したりしていくことで、自分で考えて動く姿が見られた。 ◎困ったことがあった時、言葉で発信することが難しかったり、「こうなった」だけ言ったりする子もいるので、「～だから困っているんだね」と声かけをし、困ったことが安心して言えるように援助していく。
教師の役割	やりたい意欲を引き出す遊びの創造や環境の工夫をする	保育の質を高める研修を行い、実践を進める	・援助・環境構成のあり方について、視点をもとにレポートを作成し、職員間で意見交流する。(月案1回、エピソード研修3か月に1回、中堅者資質向上研修、長期研修)	B	○月案検討、エピソード研修、保育参観と研究協議、週1回の環境についての検討等計画通りにはいかなかったが、互いが学び合い、子ども理解、環境構成について共通認識が持て実りある研修となった。 ◎短時間で、濃い内容で意見が出しあえる職員会の工夫をしていく。
	個々の実態に応じた指導・援助・環境を工夫する	個々の成長発達を理解し、職員で共通理解する	・個・集団の変容と援助について個別指導経過の交流・検討を実施する ・関係機関や相談機関と丁寧に連携する	C	○個の話全職員ですること、様々な視点で子どもの姿を見取ることができ、具体的な援助の仕方を探る手掛かりとなった。 ◎関係機関と計画的に電話連携や見学をするようにし、個の理解に努めていく。
信頼される幼稚園	幼稚園教育の理解を広める	アンケートで「便りや手紙、対話等で子どもの様子や成長がわかる」と肯定的評価する保護者を80%以上にする	・保護者に手紙・便り・対話等で子どもの様子や育ちを知らせる ・園長だより・園だより・クラスだよりをそれぞれの役割・ニーズを踏まえて発行し、保護者や地域に発信する	B	○便りでは、子どもの様子が伝わるように写真を多くしたり、降園時にはその日の保育の中での学びを保護者に伝えたりし、子どもの様子や成長を発信することができた。 ○アンケートでは、「便りや手紙、対話等で子どもの様子や成長がわかる」という項目の肯定的評価が99%だった。そのうち、「とても」が65%だった。 ◎スマート保育の導入により、どのように発信するか各職員が自分の役割を担うための工夫改善をする。
	子育てについて気軽に相談できる幼稚園にする	アンケートで「安心して幼稚園に預けられる」と肯定的評価する保護者を80%以上にする	・職員から保護者に積極的に声かけをし、信頼関係を築き、子育てについて共に考える機会をもつ	B	○アンケートでは、「安心して幼稚園に預けられる」という項目の肯定的評価が100%であった。そのうち「とても」が91%だった。 ○その日にあったことや頑張っていたことなど、積極的に保護者に声かけをし、信頼関係を築こうと努めた。